

2004年度大谷大学短期大学部博物館学課程

2004年度の活動計画

2004年度の文学部・短期大学部の博物館学課程は、前年度の反省を踏まえて立案され、諸課程委員会博物館学課程部会で承認された授業計画に基づき、博物館実習Ⅰ担当教員を中心に実施した。

博物館実習Ⅰ(学内実習)

本年度の博物館実習Ⅰ(「2004年度博物館実習Ⅰ(学内実習)授業テーマと内容」参照)は、文学部第3学年と短期大学部第2学年を中心に、大学院生・第4学年・科目等履修生を含む計25名を対象にし、まずはじめに「仏教資料取扱法」(序説)と題して、「総論」から入り、本課程の歴史やねらい、展望などにふれて、受講生に目的意識の明確化を促した。また本課程の特色である「仏教文化財」の内容を概説した。そして、受講生には「仏教資料取扱法」(序説)の内容をふまえて、「仏教文化財について」「受講生にとって博物館とは」などと題するレポート(400字×10枚)の提出を求めた。このレポート作成は、これまで観覧者の立場にあった受講生を、学芸員を目指す者として動機付けすることを目的にしたものである。

次いで、前期には、①「仏教遺物資料Ⅰ・Ⅱ」(仏教考古・仏教民俗)、②「古文書」(近世・近代史料)、③「写真撮影実習」などの講義・実習をそれぞれの担当者がおこなった。講義では知識の習得をめざす一方、実習では、実務として拓本、掛け軸、古文書などの取り扱いなどを習得させた。実習に際しては、受講生25名を4班に分けておこなった。各授業で作成した調査カードやレポートを必

要に応じて提出させた。

夏期休暇中、夏期フィールドを7月31日(土)、8月3日(火)・4日(水)の3日間で企画し、初日に「博物館等施設見学」、2日目に「古文書調査整理実習」、3日目に「博物館資料撮影実習」という計画を立て、実施した(詳細は「博物館実習Ⅰ(学内実習)夏期フィールド」参照)。終了後、受講生は夏期フィールド参加レポートを提出した。

後期、④「真宗史料」、⑤「仏教文献資料Ⅰ～Ⅲ」では、真宗史料と東洋・日本の仏教を中心とした文献資料の講義と実習をおこなった。いずれも専門的知識の習得と取り扱い技術の習得に注意した。このほか、近年、博物館でその利用が注目されている情報処理技術と博物館の関係を認知させるために「博物館とマルチメディア」の講義を実施した。

最終授業時には、1年間の授業の総括と、次年度の博物館実習Ⅱ(学外実習)にのぞむ心構えや、博物館実習Ⅰの復習など事前学習の必要性を説明した。

また、本年も受講生が主体的にテーマをもって3館以上の博物館・資料館・美術館などを見学してレポートする課題を設けた。これは受講生各自の自覚を促すとともに、学芸員の「現場」での様子を認識させる意図を持ったものである。

博物館実習Ⅰ・Ⅱ合同見学会

例年、博物館実習Ⅰ・Ⅱの受講生を対象として、春秋二季の合同見学会を実施している。本年度は次のとおりである。

春季合同見学会は、5月9日(日)午後1時30分より奈良国立博物館の特別展覧会「法隆

寺「日本仏教美術の黎明」展を見学した。また秋季合同見学会は、11月21日(日)に午後2時より京都国立博物館の特別展覧会「古写経聖なる文字の世界」展を見学した。それぞれ受講生は見学をレポートにまとめて引率教員に提出した。こうした見学会の機会は、前記の夏期フィールドでの施設見学と各自でおこなう年間3館以上の見学、そして春秋二季の合同見学会と、少なくとも4回設けている。

博物館実習Ⅱ事前ガイダンス

本年度の博物館実習Ⅱ(学外実習)の参加に先立ち、6月16日(休)午後4時10分より1号館1411教室で「博物館実習Ⅱ」受講生を対象とした「事前ガイダンス」をおこなった。概要は次のとおりである。

基調講演「博物館をとりまく状況」

京都国立博物館学芸課

保存修理指導室長 赤尾 栄慶氏
ガイダンス「現在の保存科学」

元興寺文化財研究所 保存科学センター

企画室主任 雨森 久晃氏

最初に本課程の「博物館概論」を担当していただいている赤尾先生から、表題のテーマについて、具体的な事例をふまえてさまざまな問題の指摘がなされた。また学外実習参加を目前にした受講生にとって重要な心構えを具体的にご教示いただいた。

雨森先生は、勤務研究所の概要を述べられることを通して、保存科学の現状について話され、授業ではあまり触れることができない分野のお話のためか、受講生は熱心に聞き入っていた。

講演後、両先生から質疑応答の時間を頂戴し、講演内容のほか、学外実習の細かな点にまで丁寧なお答えをいただき、有意義な事前ガイダンスであった。

終了後、受講生には学外実習の事前説明があり、それを受けて学外実習への心構えを新たにした。

博物館実習Ⅱ(学外実習)

本年度の館務実習は、7月・8月を中心にしておこなわれた。受講生は文学部・短期大学部・科目等履修生を含めた28名(内訳は、文学部・大学院20名、短期大学部5名、科目等履修生3名)であった。実習館と実習生数は次のとおりである(「2004年度博物館実習Ⅱ(学外実習)」参照)。

実習終了後、受講生は各館で実習した内容と反省点をレポートにまとめて提出した。この内容は、次年度の「博物館実習Ⅰ」(学内実習)・「博物館実習Ⅱ」(学外実習)を含む本課程の検討にとって大切な資料となる。また受講生は別に「博物館実習Ⅱで学んだこと」というレポートも提出した。本誌に掲載しているので、参照されたい。

最後に、本年もご多忙にもかかわらず、本学の実習生を受け入れていただき、ご指導を賜った各館の館長および学芸員、関係職員の皆様に厚くお礼を申し上げる。

博物館実習Ⅰ(学内実習)夏期フィールド

本年の博物館実習Ⅰの夏期フィールドは、例年通り「博物館等施設見学」、「古文書調査整理実習」、「写真撮影実習」を各1日、3日間で実施した。その後、受講生は、夏期フィールド参加レポートを提出した。

〔夏期フィールド〕

○7月31日(休)午前8時30分～午後7時30分

「博物館等施設見学」

見学：関宿旅籠玉屋歴史資料館

かめやま美術館

鈴鹿市考古博物館

亀山市歴史博物館

引率：宮崎健司助教授

平野寿則専任講師

○8月3日(火)午前10時～午後4時

「古文書調査整理実習」

場所：本学響流館博物館準備室兼実習室

指導：木場明志教授・草野顕之教授

○8月4日(水)午前10時～午後4時

「写真撮影実習」

場所：本学響流館博物館準備室兼実習室

指導：稲城正己臨時講師

宮崎健司助教授

本年度は初日に「博物館等施設見学」、2日目に「古文書調査整理実習」、3日目に「写真撮影実習」という日程となった。

1日目の「博物館等施設見学」では三重県下の4館を訪問し、それぞれの概要等を懇切に説明いただき、展観を見学した。ことに亀山市歴史博物館とかめやま美術館では、所蔵資料を使った、文化財の取り扱いなど、多くの時間を割いていただいた。2日目の「古文書調査整理実習」では、昨年度に引き続き「山城国笠置村万屋家文書」の調書作成と、目録作成のためのデータベース制作実習をおこなった。最終日は「写真撮影実習」である。前期授業での基礎知識の復習から、写真撮影の技術の初歩を講義したのち、一人ひとりが、その都度、カメラ・照明などのセッティングして、仏像などのレプリカの写真撮影実習をおこなった。この実習では特にどの受講生もライティングに苦労していた。

例年同様、本年の夏期フィールドも、多くの関係者の方々のご指導とご配慮をいただき、無事に2日間の実習を終了することができた。

博物館実習Ⅱ受講生の展示実習

本年度は、はじめての試みとして、博物館実習Ⅱ受講生による実習生展を、大谷大学博物館の秋季企画展「仏教の歴史とアジアの文化Ⅱ」にあわせて開催した。

〔実習生展「仏教説話と信仰」〕

会期：9月7日(火)～25日(土)

会場：大谷大学博物館

内容：はじめに一仏教説話とは

一、寺院縁起

『大和国長谷寺本縁起』

二、仏菩薩靈驗譚

『薬師如来瑞応伝』

『毘沙門天王靈驗記』

三、和讃

『聖人本伝縁起』

『大谷大学博物館学課程年報』の発展的解消

毎年度、文学部・短期大学部の博物館学課程を終えるにあたり、『大谷大学博物館学課程年報』(以下『年報』と略す)が編集されてきたが、諸課程委員会博物館学課程部会の検討の結果、当初の目的を果たしたと考えられることから、本年度から『年報』という形の刊行物を廃止し、必要な彙報の事項に限って別に何らかの形で報告することとなった。そして、従来、図書館報として発刊されていた『書香』が本年度より図書館・博物館の館報に改変されるにあたり、当該誌の博物館欄に『年報』に掲載していた一部を収載することになった。

(博物館実習担当 宮崎健司)



実習生展のポスター

■2004年度 博物館実習Ⅰ(学内実習) 授業テーマと内容

日程	授 業 テ ー マ	担当者	授 業 内 容
4.12 19	仏教資料取扱法 (序説)	宮崎健司	博物館実習Ⅰのねらいと展望(総論) 仏教文化財について
4.26 5.10 17	仏教遺物資料Ⅰ (仏教考古)	宮崎健司	仏教遺物資料(講義) 仏教遺物資料の取り扱い実習
5.24 31 6.7	仏教遺物資料Ⅱ (仏教民俗)	豊島修	仏教民俗・民俗資料(講義) 仏教民俗・民俗資料の取り扱い実習
6.14 28 7.5	古文書 (近世・近代史料)	木場明志 草野顕之	近世・近代史料の種類(講義) 近世・近代史料の取り扱い実習 史料調査法
7.12	写真撮影実習	宮崎健司 稲城正己	フィルムの種類・機能及び撮影上の注意事項 撮影実習
7.31 8.3 8.4	夏期フィールド	木場明志 草野顕之 宮崎健司 平野寿則 稲城正己	博物館・美術館などの施設見学 古文書調査実習 博物館資料写真撮影実習
9.27 10.4	真宗史料	一楽真	真宗史料(講義) 真宗史料(聖典・絵画)の取り扱い実習
10.18 25	仏教文献資料Ⅰ (東洋仏典)	織田顕祐	大蔵経の種類(講義) 漢訳大蔵経の取り扱い実習
11.1 8	仏教文献資料Ⅱ (漢籍中心)	浅見直一郎	漢籍・中国資料の概要 漢籍取り扱い実習
11.22 29	仏教文献資料Ⅲ (日本仏典)	沙加戸弘	日本書誌学の基本(講義) 仏教文献資料の取り扱い実習
12.6 13	博物館とマルチメディア	松川節	博物館における情報処理技術(講義)
12.20	博物館関係法規	宮崎健司	博物館関係法令の概要(講義)
1.17	総括	宮崎健司	本年度の反省と博物館実習Ⅱにむけて

■2004年度 博物館実習Ⅱ(学外実習)

実習館名(館長名)	実習期間	実習生名
彦根城博物館(石丸正運 館長)	5.16、7.14・27、 8.9・11・13	東郷紀子
大阪市立美術館(藁 豊 館長)	6.28～7.5	上村真生 藤元みな
滋賀県立琵琶湖文化館(宮本忠雄 館長)	7.6～10	有光麻衣子 五十嵐麻依
大阪城天守閣(中村博司 館長)	7.26～29	大畑博嗣
奈良県立民俗博物館(西山 徹 館長)	7.27～31	中西杏子
京都国立博物館(興膳 宏 館長)	8.2～5	今西智久 三角萌々 岩田晃治
奈良国立博物館(鷺塚泰光 館長)	8.3～6	鷺山晶之 澤田知明
栗東歴史民俗博物館(佐々木進 館長)	8.10～13	杉山慧子 若林瑞枝
池田市立歴史民俗資料館(長森育代 館長)	8.18～22	神原利枝子
大阪歴史博物館(脇田 修 館長)	8.23～27	藤岡聖規
京都市歴史資料館(井上満郎 館長)	8.24～27	尾原弘樹
靈山歴史館(谷井昭雄 館長)	8.24～27	長谷川周 加藤里美 西川 円
大津市歴史博物館(松浦俊和 館長)	8.24～28	大橋佑美 川口麻子 宮下育美
岩手県立博物館(海妻矩彦 館長)	8.25～31	堀澤美佐代
日本民家集落博物館(井藤 徹 館長)	9.22～25	高垣 樹 金谷幸枝
大谷大学博物館(木場明志 館長)	10.29・30、11.1～6	松田 悠 松尾崇弘

学芸員資格取得者(2005.3.18付、第16期生)

〔大学院〕 鷺山 晶之・大畑 博嗣

〔文学部〕 杉山 慧子・長谷川 周・澤田 知明・有光麻衣子・今西 智久・尾原 弘樹
神原利枝子・高垣 樹・東郷 紀子・中西 杏子・藤岡 聖規・堀澤美佐代
松尾 崇弘・松田 悠・三角 萌々・若林 瑞枝・金谷 幸枝・加藤 里美

〔科目等履修生〕 五十嵐麻依・岩田 晃治・西川 円 (23名)

博物館学課程単位修得者(2005.3.18付)

〔短期大学部〕 上村 真生・大橋 佑美・川口 麻子・藤元 みな・宮下 育美 (5名)

2004年度博物館実習Ⅱ レポートから

私は奈良国立博物館で4日間実習させて頂いた。実習内容は、彫刻・工芸・書跡・絵画・考古の調査方法と取り扱いについての講義と実技である。配当実習生の数が多く、全員が全ての取り扱い実習をすることが時間的に許されなかったのは残念であった。事前に実習内容の予習をしていたので、基本的なことは把握していたつもりだったが、現場にいる学芸員の先生方から、体験に基づいての心構えや、現実的な話を聞いたことは有意義であった。教室長の中島博先生が博物館の教育普及活動の講義で、文部科学省や学校教育との連携の難しさ、また国立博物館は国からの影響が強く、館の方針だけでは運営できない等の問題を話されたのは特に印象的だった。短い期間だったが、いかに今の自分が学芸員からほど遠いかを知らされ、今後、学芸員になるための貴重な一歩を踏み出すことができたように思う。

大学院修士第2学年(真宗学専攻) 鷲山晶之

* * *

大阪城天守閣において、7月26日から29日まで4日間という短い期間であったが、博物館実習に参加して、「博物館学芸員」とはどのような職業であるのか、ということを知ることができた。文化財の取り扱い方など、学内での実習で学ぶ知識が必要であることは当たり前だが、それ以外に個人の収蔵者や他の博物館の学芸員との関係が重要であることが、感じられた。学内での実習も大切であるが、実際に現場で働いている学芸員の方からお話を聞くと、大変な仕事であると感じると共に、学芸員の方の一言に重みがあり、大変

勉強になった。また、自分にとって大切な体験であった。今後、文化財に触れることがあれば、今回体験したことを生かして、文化財と接したいと思う。

大学院修士第2学年(仏教文化専攻) 大畑博嗣

* * *

私は8月10日から13日まで栗東歴史民俗博物館で実習をさせていただいた。実習の中で大変印象に残った言葉は、こちらでは「地域に開かれた博物館」を目指して活動されているのではあるが、目指すとはいえ、他地域や中央の流れとの関わりもあることをふまえ、地域を狭い視野で見えてはいけないということである。また、今、博物館に求められる人材とは、マルチな人間であるということだ。専門知識だけでなく、世の中の情報、人々の流れをキャッチし、博物館から人々に、世の中に普遍的なメッセージを伝え、訴えかけるプロもこれからは必要になってくるとのことだった。これらをふまえ、モノを魅力的に見せ、興味をもたせるのが学芸員の仕事だと聞き、改めて学芸員の仕事の責務について考えさせられた。博物館の学芸員の仕事に触れたと同時に、学芸員の目指すべき姿を知ることができ、貴重な経験ができた。

文学部第4学年(真宗学分野) 杉山慧子

* * *

8月24日から4日間、京都市東山にある霊山歴史館で実習がおこなわれた。4日間で特に印象に残っていることが、広報や会計についての講義や実物を使っての取り扱い実習である。広報や会計では、どのように広告して

宣伝し、来館者を増やして経営していくかなど、私立博物館ならではの話であり、とても勉強になった。取り扱い実習では、刀や木刀など触れたことのないモノで戸惑ったが、一応しっかりできたのでよかった。私は休み時間に歴史館の学芸員の方と個人的に話していたのだが、博物館学芸員は何事も勉強だとおっしゃっていたのを覚えている。みんなに講義をして感想文を書いてもらうのも自分にとっての勉強になるともおっしゃっていた。このようなお話を聞いて、自分自身の甘さを痛感した。それだけ勉強し、内容の濃い4日間だったと思う。学芸員の幅広い仕事を少しでも知ることができてよかった。

文学部第4学年(真宗学分野) 長谷川周

* * *

8月3日から6日の4日間、私は奈良国立博物館で博物館実習をさせていただいた。実習内容は、博物館の将来、企画から展示、情報・図書資料の整理・公開、教育普及活動、文化財の修理—彫刻を主に一の講義、専門分野においては、彫刻・工芸・書跡・絵画・考古の各調査法・取り扱いの講義と実習という内容であった。また、最終日の昼休みを利用して展示室見学の機会を与えてもらった。実習で教わった内容(学芸員の職務である調査・研究・展示・保管・収集・整理、その他の事務・雑用等)は、全て学芸員の仕事であり責任の重さや幅の広さに驚いたが、楽しそうに話される学芸員の方を目の当たりにし、さらに学芸員という職種に魅力を感じた。また、他大学の学生の話を知ることができたことも良い経験と刺激になった。最後に忙しい中、実習をしていただいた学芸員の方々に、良い経験をさせていただいたことを御礼申し上げます。

文学部第4学年(仏教学分野) 澤田知明

* * *

私は滋賀県立琵琶湖文化館で5日間、実習をさせていただいた。館での講義のほかに現地実習として、園城寺勧学院所蔵の典籍類の調査を行った。蔵から典籍類を運び出す際、特に注意されたのが、互いに声を掛け合うことだ。破損の状況を伝え、互いに声を出し、確認しながら運んでいった。この現地実習を通じて他大学の実習生と仲良くなれ、何より資料を扱う際のコミュニケーションの大切さを学んだ。学芸員としてモノが扱えないと意味がない。だから今回の実習では、実際に重要文化財に触れる機会が多くとられた。文化館では、学芸員はもちろん、館で働く人みんなが展示替えから運搬まで行うそうだ。館で働く人みんながモノを扱えることを文化館では大切にしている。そういった人とモノとの関わり大切さを文化館の方々から学んだ。貴重な体験、そこから学んだことを忘れず、今後に生かしていきたいと思う。

文学部第4学年(日本仏教史学分野) 有光麻衣子

* * *

8月2日から5日までの4日間、京都国立博物館での実習に参加したが、この間「文化財の命を永らえさせる」学芸員の仕事(赤尾栄慶先生のお言葉)を通じて博物館を内側より学ぶ機会を得たことは、博物館学課程を履修する者として、或いはそうでなくとも、頗る貴重な時間であった。実習内容は講義や取り扱い実習よりも特別展などの展示作業の見学に重点が置かれ、私などは拱手傍観するだけであったが、展示に携わる方々の作業の一端を見学して、博物館が文化財を中心として、言わばそれを目的としていると感じた。寔に曲突徒薪と言い得る文化財の取り扱いには、「学芸員にかわりはいても、文化財にかわりはない」(赤尾先生)とする文化財に携わる方々の意識を体現するものだろう。求められるのは作品に対する飽くなき関心と追求の姿勢である。かくある姿勢を深く心に留

め、今後の学習に勉めたく思う。お世話になった先生方に深く感謝する次第である。

文学部第4学年(東洋仏教史学分野) 今西智久

* * *

私は8月24日から27日までの4日間、京都市歴史資料館で実習をさせていただいた。実習は「調査の手順を身に付ける」ことを目的に、実践に役立つようにと古文書調査を中心に、実践に役立つようにと古文書調査を中心に行われた。調査を行ったのは「千總文書」で、整理・分類・カード取りと作業を行った。調査では法令や証書類など様々な文書に触れることができた。古文書調査は一見地味ではあるが、この地味な作業こそ最も基礎的な仕事であり、これが学芸員の仕事でもある。調査は時間と労力のかかる仕事であり、集中力と注意力のいる作業であった。最終日には、刀剣と鉄砲の取り扱い実習も行い、4日間を通して学内ではあまり体感できない生の資料に触れることができ、とても貴重な経験となった。この実習でわずかではあるが学芸員の仕事の一端を知ることができた。この実習で学んだことを忘れず今後ともさらに努力していきたいと思う。最後に指導して下さった宇野先生や館の方々に心から感謝し、御礼申し上げたい。

文学部第4学年(東洋史学分野) 尾原弘樹

* * *

私は8月18日から22日までの5日間、池田市立歴史民俗資料館で実習をさせていただいた。エクセルへの外国切手のデータ入力、慈母観音関係資料の整理作業だけでなく、資料館の催しに参加する等、様々なことを経験することができた。私がした作業は資料館の業務の一部分にすぎなかったが、その中で今まで考えもしなかった疑問がでてきたり、保管をよりよく行うにはどのようにしたほうが良いか等、ただ知識を詰め込んでいただけでは気付きもしなかったであろうことを知った。

そして実際に作業をしたことで、資料整理は地道な作業であり、多くの時間と手間がかかることを実感した。今回の実習では一人ずつ行うということで、他大学の学生と意見を交換し合うような機会はなかった。しかしその分、学芸員等、資料館職員の方と様々な話をし、質問も細かくすることができたと思う。実習期間中、ご指導して下さった全ての方々に心からお礼を申し上げたい。

文学部第4学年(国史学分野) 神原利枝子

* * *

私の実習館は大阪の豊中市服部緑地にある「日本民家集落博物館」という。当館最大の特徴は、重要文化財クラスの建造物に上がりこみ、直接手に触れ、匂いを嗅ぎ、座りこんだり、寝そべったり、思い思いの体験ができることだろう。したがって、民家の手入れは入念に行われているものの、財政上の問題などから不備不満が多数見受けられるとのことである。博物館を維持運営する上で避けることのできない財政問題を強く意識させてくれた実習でもあった。あわせて4日間の日程を組んでいただいたのだが、どの実習も当館ならではのと思われるものばかりであった。もちろん私にとっても初体験尽くしであったことはいままでもない。それも相乗効果となって、肉体労働のたいへんさを差し引いても実習を楽しむことができたと思っている。館長をはじめ多大な労力と時間を割いて下さった実習館のスタッフの方々に心より感謝申し上げる次第である。

文学部第4学年(国史学分野) 高垣 樹

* * *

私は、彦根城博物館で7日間実習をさせていただいた。実習内容は、テーマ展「日本の楽器・笙一井伊家伝来資料から一」のアシスタント及び、展示レイアウト、看板・パネルのデザイン、チラシ・題箋などの作成であ

る。実際に作業をしてみて、学芸員の仕事の多さに圧倒された。展示の企画や展示作業、チラシ・パネルの作成、マスコミへの告知に至るまで、展示に必要な準備をほとんど学芸員が行わなければならない。学芸員は研究の能力・知識以外にも様々な作業に柔軟に対応できる能力が必要なのだを学んだ。また、展示には細部にわたって創意工夫がなされており、観覧者に対する思いが込められている。ほんの一部ではあるが、学芸員の仕事に対する姿勢、仕事の内容を知ることができ、とても貴重な経験ができたと思う。ここで学んだことを是非今後活かしていきたいと思う。最後に、お忙しい中ご指導して下さった学芸員の方々に深くお礼を申し上げたい。

文学部第4学年(国史学分野) 東郷紀子

* * *

私が実習した奈良県立民俗博物館では、奈良県の農業・林業に関連した様々な民俗具が展示されていた。実習は、収集してきた民俗具の清掃・整理・登録・撮影を一通り行った。実習生が担当することになったのは、黒滝村から収集してきた生活民具の数々で、1日半かけて清掃・整理をした。その後、収蔵庫に多く収蔵されている牛耕具の内、マンガとカラスキの登録・撮影を行った。同じように見えるマンガやカラスキも、数種類に分類でき、それぞれ計測した後に再び収蔵庫に戻した。思いの外に民俗具に触れることができたのだが、数ある民俗具ですら細心の注意を払わなければならなかった。また、同種のモノであっても、それぞれ使用者の長きに渡る歴史が込められており、全てを大切に扱い、深く研究するべきなのだということを学ぶことができた。どのような博物館でも、貴重な体験ができるのである。

文学部第4学年(日本仏教史学分野) 中西杏子

* * *

私は大阪歴史博物館において4日間の実習に参加した。今回は特に理解が欠けている点、博物館における普及事業などについて、実際の現場や活動している学芸員の声を見聞き、改めて理解することを目標として実習に臨んだ。大阪歴史博物館では「市民参加型の博物館」をテーマに、利用者が気軽に参加できる普及事業が多数設けられている。しかし、それらを実施するにあたっては、利用者の年齢層やそれに応じた事業内容の設定、利用者側の声を聞き、積極的に反映させるなど、学芸員が試行錯誤を繰り返す中で生み出されている様子を知ることができた。またそのためには、専門分野にこだわらず幅広い視点で考える必要があることも学んだ。博物館のあり方が問われる今、普及事業の現状について学べたことは大きな収穫となった。大阪歴史博物館と学芸員の方々には、心から御礼を申し上げたい。

文学部第4学年(国史学分野) 藤岡聖規

* * *

8月25日から31日の1週間、岩手県立博物館で実習をさせて頂いた。どの分野でも、人手が足りていないのが印象的だった。どこの館でもそうであるらしいが、1館あたりの学芸員の数は少ないのが現状のようである。よって、大きさや重量のあるモノ、量の多いモノはどうしても手こずるようだ。そして、大量に所蔵している近世・近代文書の調査のための人手が足りない、専門的な化学処理ができる人や施設が少な過ぎる、最近、力を入れるよう指導されている教育普及業務が増え、他に手がまわりにくい、等々の専門分野の人手不足の話題も話されていた。狭き門、供給過多と言われる学芸員だが、実態は必要最低限にも満たない人数で動かしているのだと感じた。そんなお忙しい中、貴重なお時間を割いて下さった同館の皆様、心から御礼申し上げたい。

文学部第4学年(国史学分野) 堀澤美佐代

* * *

10月29日から実質4日間、大谷大学博物館で実習をさせていただいた。実習の主な内容は版木梱包、講演会準備、特別展示替補助・見学、温湿度計表示紙やパナプレートの交換、収蔵庫内の掃除、谷邊橋南資料の調査だった。学芸員とは研究職というイメージがどうしても強かったが、資料の展示公開のためには様々な地道で根気のいる業務をこなさなければならないと改めて痛感した。特にメジャーを手にキャプション、資料配置を精密に行っている様子を見学した時は観客の視点に立った展示がいかに大切かを思い知らされた。また、大学博物館運営の問題にも触れられ、学生にいかに関心を持ってもらうか、モノで見せる博物館をどう充実させていけば良いのかなど課題も多々あることを知り考える機会にもなった。今回の実習ではより実践的な業務を体験でき、学芸員には多様な業務と柔軟性が求められることを実感した。自分のミスは反省してこれからこの経験を役立てていきたい。

文学部第4学年(日本仏教史学分野) 松尾崇弘

* * *

私は大谷大学博物館に実習に行って、これまでの博物館実習課程とは全く違った実践的な内容を学び取ることができた。博物館内の展示に関することや、収蔵庫など色々回って、いろいろな作業をすることは講義などで教えられることより、本当に色々経験できた。実習で気づいた点といえば、博物館内の作業は地道な内容が多く、根気がある仕事だということと、大学内の博物館は教育面の問題から、地域博物館と同じように、観覧者の対象をどこに絞り展示していいのかわからない点など色々な問題も知ることができた。4日間という短い期間であったが、有意義な実習であった。ただもっと事前に学習をすべきで

あったとの後悔も残った。

文学部第4学年(日本仏教史学分野) 松田 悠

* * *

8月2日から5日までの4日間、独立行政法人国立博物館・京都国立博物館で実習を受けさせていただいた。展示に至るまでの流れ、資料の購入・収集、修理・保存、梱包・運送、展示作業や写真撮影、問題の処理等を現場で見学することができた。赤尾先生は「見ている側に安心感を持たせられるかが学芸員の一番の仕事」と仰っていた。例えば、運ぶ際に自分の身よりも資料を「死守」する。その死守している様子が他者に分かるように運ぶとのこと等々である。実際に緊張感の張りつめた現場で、学芸員の方々から教わり、自らが実践したことは、私の貴重な経験となった。この実習で役立ったことは、授業で学んだ「知識」ではなく、掛け軸を取り扱った「経験」だった。今回の実習で、学芸員は「知識」のみではなく、現場による「経験」によって柔軟に問題を処理し「仕事」を進めていることを知り、「経験」が如何に重要なことなのかを痛感させられる機会となり、大変有意義な実習となった。

文学部第4学年(日本仏教史学分野) 三角萌々

* * *

8月10日から13日までの4日間、私は栗東歴史民俗博物館で実習をさせていただいた。短い期間でありながら、博物館内施設の見学と説明、古文書の解説、民具の調査、仏像の取り扱いと調査カードの作成など充実した実習内容であった。戦時中の古文書や一木造の仏像などに、生で触れられることに感動すると同時に、学芸員の方のように上手く扱えず、貴重な資料を取り扱う自覚と経験が足りないことを感じさせられた。民具は主に住民の方から譲り受ける場合が多く、学芸員が行なう収集・調査・清掃・保管そして展示と

いった過程を経て、はじめて展示資料となる。地域の人々との関わりが大切であるとともに、「もの」に価値を与えるのは学芸員の仕事であることを知った。実地で学ぶことにより、学芸員の意識に感化され、実習の前よりも学芸員の側に立って物事を見つめられるようになったと思う。ここで学んだ貴重な経験を、今後につなげていきたい。

文学部第4学年(日本仏教史学分野) 若林瑞枝

* * *

私は9月22日から25日までの4日間、日本民家集落博物館で実習させていただいた。大学での博物館実習と違って、開館して入館者を迎える博物館内での実習は良い経験になった。野外博物館ということもあり、野外での作業がほとんどだった。1日目はオリエンテーション、博物館内見学をして館内の民家について学芸員の方から説明を聞いた。次の日からは民家の清掃、民具の補修、障子の張り替え、畑作業の手伝い等の実習内容であった。実習中、学芸員の方や館内ボランティアの方々から民家の構造、博物館の事情を丁寧に説明していただいたりと、大変お世話になった。実際の博物館での仕事が、屋内で研究しているばかりではなく、外で動きまわることが多いことを身をもって実感することができ、貴重な経験となった。博物館の皆様には、お忙しい中、いろいろお世話になり、心から御礼申し上げる。

文学部第4学年(国文学分野) 金谷幸枝

* * *

私は8月24日から27日までの4日間、霊山歴史館で実習させていただいた。実習内容は、講義と梱包や遺品等の取り扱い実習であった。講義では広報・会計といった博物館運営に関することや京都における博物館の役割などについて学んだ。現在、博物館の置かれている状況は非常に厳しく、公共施設で

あっても存続が危ぶまれている。その状況の中で生き残っていくための努力や工夫だけでなく、知的財産を守り後世に伝えていくことが学芸員として必要なことなのだと感じた。また、資料の取り扱い実習では、掛け軸の掛け方や刀の手入れ、砲弾や銃といった様々な資料に触れさせていただいた。博物館実習Ⅰの授業では触れたことのない資料ばかりで、とても貴重な体験となった。今回の実習によって、博物館運営の難しさと学芸員が担う役割について考えるきっかけとなった。最後に、お世話になった方々にお礼申し上げたい。文学部第4学年(国際文化学分野) 加藤里美

* * *

7月6日から7月10日まで、滋賀県立琵琶湖文化館で実習させていただいた。現在、琵琶湖文化館が抱える多くの問題や、そういった現状の中での管理運営について、多くのことを学ぶことができた。博物館自体の保護や運営資金、展示品の保管、これからの博物館に必要なものなど、学芸員の仕事の多さと大変さを改めて感じた。実習中には、園城寺での1泊2日の現地実習が行われ、勸学院所蔵典籍類を調査した。調査カードを作成するこの作業では、モノを取り扱い調査をしていく上で、細心の注意と丁寧さが必要とされることを、身をもって知った。7月の暑い時期でもあったため、集中力と体力が非常に必要とされた現地実習であった。琵琶湖文化館での実習は新たな発見や経験の連続で、多くのことを学ぶことができたと同時に、これから自分が学ばなければならないことも分かり、大変充実したものであった。

科目等履修生 五十嵐麻依

* * *

8月2日から5日まで、京都国立博物館で実習させていただいた。4日間という短い期間であったが、館の概要の講義、巻物や掛け

軸の取り扱い方法、常設展や特別展の展示替え、文化財保存修理所の見学など様々なことをおこなった。その中で特に印象に残ったのは博物館の「表」と「裏」の違いで、つまり表に展示されている文化財の静寂さと、その裏で息つく暇もなく働いている学芸員の姿の違いであり、また文化財の状況や構造を把握し文化財を熟知し、様々に工夫を凝らし、決して妥協を許さない態度を直に感じる事ができた。今回経験した作業の数々は学芸員の仕事の一端に過ぎないが、実習で学んだことを忘れずに今後に生かしていきたいと思う。最後ではあるが、お世話になった博物館の方々へ深く感謝するとともに、心からお礼を申し上げたい。

科目等履修生 岩田晃治

* * *

今回、私が実習でお世話になったのは、東山の情緒あふれる地にある霊山歴史館であった。全国唯一、幕末維新を専門に扱った博物館で、今年は大河ドラマ人気の影響もあって、特に来館者が増えている、とのことであった。そんな忙しい中で、学芸員をはじめ、講師の方々へ時間をつくって準備をし、懇切丁寧に指導して下さったことにとっても感謝している。講義・実習中も場の雰囲気をもくし、また貴重な文化財の数々に触れる機会を実習生一人ひとりに与えるなど、常に実習生の側に立って考えて頂いた。学芸員としての知識、研究者としての学識が必要なのは勿論のことではある。しかしそれだけではなく、資料の借用にしる、館のディスプレイにしる、その他様々な仕事においても、相手の気持ちになって考えることこそが博物館学芸員にとって大切であるということが、今回の実習を通して学べたと思う。

科目等履修生 西川 円

* * *

6月28日から7月5日の期間で6日間、大阪市立美術館で実習させていただいた。学内で行う実習とはまた違う雰囲気の中で、学芸員の方と一緒に作業ができ、とても感動し、すごく貴重な経験ができたと思う。私が実習にうかがったのは、ちょうど展示会の準備をしている時だった。そこで実習生は、その展示準備を手伝わせて頂くことになった。日本画・洋画・工芸・彫刻・書の五つのグループに分かれて作業することになり、私は書のグループを選択した。各グループに専門の学芸員の方がつき、展示の仕方だけではなく、書の種類や、入選・落選についてや、入選にも種類があることなど、丁寧に楽しく教えて頂いた。実習期間をはじめて知った時に5日間は長いと思ったが、実際はとても短く感じた。まだまだ知らないことがたくさんあることを学んだ実習だったが、ますます学芸員として働きたいと思う実習となった。

短期大学部第2学年(文化学科) 上村真生

* * *

8月24日から8月28日までの5日間、大津市歴史博物館で実習させていただいた。1日目と2日目は主に講義、3日目と4日目は実習、5日目は反省会という日程だった。講義では展示の説明や資料の保存環境、博物館の広報と普及活動などについて話をいただいた。また実習では、高札の調書の作成、明治の教科書の調査カードの記入、美術工芸資料の取り扱いと展示を行った。5日間という短い期間ではあったが、この実習に参加することで多くのことを学ぶことができた。また実際に学芸員として仕事をしてみなければわからないようなことを、直接、学芸員の方から聞き、また自らが行い、学芸員の仕事の様々な側面や全体像、博物館そのものについても考えを深めていくことができた。秋の展覧会に向けてとてもお忙しい中、指導して下さった学芸員の方々には、心からお礼申

上げたい。

短期大学部第2学年(文化学科) 大橋佑美

* * *

私は、8月24日から28日までの5日間、滋賀県にある大津市歴史博物館で実習させていただいた。館内全体を初日は見学させていただき、他の日は歴史資料の取り扱い方や博物館収蔵資料の整理というものを体験させていただいた。中でも美術工芸資料を取り扱った展示作業は、掛軸を展示ケース内に掛けるにも、それぞれ工夫されており、学芸員という仕事の真の姿を見たような気がした。講義もとても博物館に必要な話ばかりだったので、とても興味をもって話を聞くことができ、よかったと思う。5日間、とても貴重な体験させて頂けたと思う。

短期大学部第2学年(文化学科) 川口麻子

* * *

私は6月28日から7月5日までの土・日を除く6日間、大阪市立美術館へ実習に行かせていただいた。今回私たち実習生がお手伝いしたのは、7月9日から開催される全関西美術展へ向けての準備であった。また準備の手伝いだけでなく、学芸員の方から講義を受けたり、寺院などからやってきた古美術品等の修理の様子なども見学させて頂くことができた。6日間の実習を経て、今までに知り得なかった博物館・美術館での仕事内容の大変さをよく知ることができた。いろいろなモノを見、体験したことによって、一層、博物館・美術館で学びうる多くのことを感じ取ることができた。

短期大学部第2学年(文化学科) 藤元みな

* * *

私は8月24日から28日までの5日間、大津市歴史博物館で実習に参加させていただいた。実習は講堂や収蔵庫内での講義、美術工

芸資料の取り扱いや展示実習、大津周辺地域の資料調査カード作成であった。講義は学芸員の方々が分かりやすく、そしてユニークに教えてくださり、大変楽しみながら学習することができた。また、展示実習や資料調査では、実際に触れることで資料の取り扱い方や展示方法を多くの資料を扱って学び、学内実習で扱ったより多様な資料を取り扱い、貴重な体験となった。その一方、自分の知識や経験不足を感じた5日間となった。直接、学芸員の方々から学ぶことで、博物館運営や学芸員という職業の本当の姿を見ることができた。そして改めて博物館の仕事は大変なものだと感じた。長いようで短かった5日間、当館で実習させていただいて本当に良かったと思う。最後に、お世話になった館の方々に深く感謝したい。

短期大学部第2学年(文化学科) 宮下育美